

国立国会図書館

採用案内

National
Diet Library
2025



●お問合せ先

国立国会図書館総務部人事課任用係

住 所：〒100-8924 東京都千代田区永田町1-10-1

電 話：03(3506)3315(直通) 03(3581)2331(代表) 内線20420

E-mail : saiyo@ndl.go.jp

館長挨拶 ー国立国会図書館の職員を志望する皆様へー	2
国立国会図書館職員の概要	3
部局紹介	
調査及び立法考査局	5
収集書誌部	7
利用者サービス部	9
電子情報部	11
関西館	13
国際子ども図書館	15
総務部	17
海外との交流	18
管理職からのメッセージ	19
若手職員の声	21
採用情報	22

国立国会図書館へのアクセス



東京本館

東京都千代田区永田町 1-10-1

- 東京メトロ
有楽町線「永田町」駅 2 番出口 (徒歩約 5 分)
半蔵門線・南北線「永田町」駅 3 番出口 (徒歩約 8 分)
千代田線・丸ノ内線「国会議事堂前」駅 1 番出口 (徒歩約 12 分)



関西館

京都府相楽郡精華町精華台 8-1-3

- JR 学研都市線「祝園」駅・近鉄京都線「新祝園」駅から奈良交通バス「国立国会図書館」停留所 (所要時間/約 13 分)
- 近鉄けいはんな線「学研奈良登美ヶ丘」駅から奈良交通バス「国立国会図書館」停留所 (所要時間/約 15 分)



国際子ども図書館

東京都台東区上野公園 12-49

- JR「上野」駅公園口 (徒歩約 10 分)
- 東京メトロ日比谷線・銀座線「上野」駅 7 番出口 (徒歩約 15 分)

国立国会図書館は、昭和 23 (1948) 年の設立以来、出版物等の収集、保存、提供を通じて、国会活動の補佐とともに国民の知的活動を支える役割を担ってきました。

現在、国立国会図書館は令和 3 (2021) 年度に定めた「国立国会図書館のデジタルシフト」と題するビジョンの下、所蔵資料の大規模なデジタル化を核とした国のデジタル情報基盤の構築を進めています。資料をデジタル化することで、質の高い情報へより多くの人々がアクセスできる環境を整備し、次の世代を含めた人々の知的活動を支え、新たな価値の創造へ寄与することを目指しています。また、ユニバーサルアクセスの実現を目指して、情報システムの整備を進め、読書バリアフリーの推進や調べ方案内など社会に役立つ情報発信を図っています。

国立国会図書館としても一つ特徴的なことは、国立国会図書館で利用可能な情報資源を最大限活用した国会サービスです。国会議員の方々の職務を補佐するため、産業、経済、医療、科学技術等の多様な国政課題や諸外国の制度等に関する調査研究の充実化を図り、迅速かつ確かな情報提供を行っています。

現在、私たちは様々な意味で旧来の考え方、制度、慣習を見直さざるをえない時期に来ているのではないのでしょうか。激動する世界情勢、気候変動に伴い頻発する災害、生成 AI をはじめとする新しい技術による社会の変化など、少し前には想像もできなかった事象が起きているといえます。これらの事象が引き起こす社会の多様な課題の解決は容易なことではありませんが、人類が蓄積してきた信頼できる知識、情報こそがすべての検討や議論の土台として必要とされるのではないのでしょうか。

まさに激動といわざるをえないこの時代において、人々が未知の複雑な課題に直面した際にどのような情報や知識を求めるといった利用者のニーズに的確に応え、可能性に満ちた未来の創出に貢献するためには、従来の発想や枠組みにとらわれず、様々な課題に臆することなく前向きに取り組む職員の力が必要です。

国立国会図書館は、法律、人文学、経済、工学、生物学、情報処理等の多様なバックグラウンドを持つ職員が、周囲と切磋琢磨しスキルを向上させながら、個性をいかして働き続けられる場所であると思います。皆様と共に仕事ができることを楽しみにしています。



国立国会図書館長

倉田敬子

国立国会図書館は立法府に属し、国会、行政・司法の各部門及び一般公衆に対して幅広いサービスを提供しています。国立国会図書館の業務は調査業務・司書業務・一般事務に分けられ、総合職試験、一般職試験等での採用者はこれら3つの業務の様々な仕事を担います。

職員の身分は国会職員（特別職国家公務員）で、東京本館（東京都千代田区永田町）、関西館（京都府相楽郡精華町）又は国際子ども図書館（東京都台東区上野公園）で勤務します。

職員の定員は895名（令和6年4月現在）です。

身分

国会職員（特別職国家公務員）
※勤務条件等は一般職の国家公務員とほぼ同様です。

勤務時間

本則は、午前9時から午後5時45分まで（休憩60分を含む）。
また、育児短時間勤務、保育時間、育児時間、早出遅出勤務、時差通勤、フレックスタイム制等の制度を利用できます。

給与

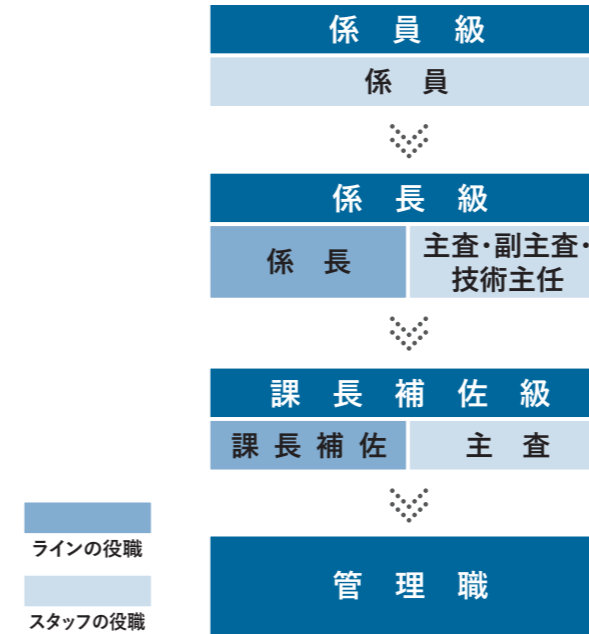
給料は一般職の国家公務員の給料に準じた額となります。
また、期末・勤勉手当（6・12月期）、通勤手当、扶養手当、住居手当、超過勤務手当等が支給されます。

勤務地

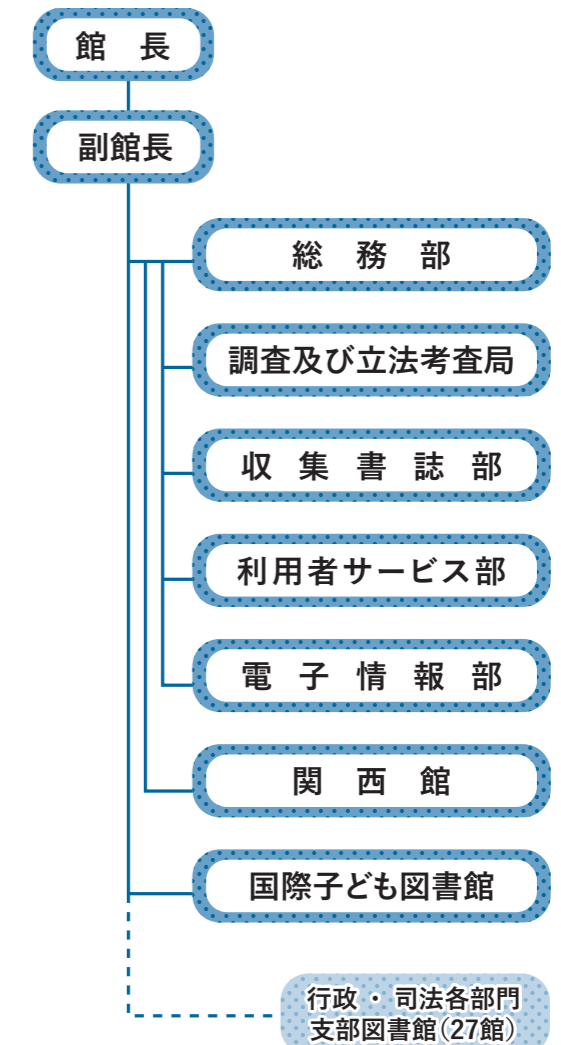
【東京】 東京本館（東京都千代田区永田町）
国際子ども図書館（東京都台東区上野公園）
【京都】 関西館（京都府相楽郡精華町）
※官署間の異動、東京と京都間の転勤があります。

キャリアパス

国立国会図書館の職員は、定期的な異動によって様々な部署や業務を経験し、多様なキャリアを歩みます。学歴、専攻にかかわらず、職員の適性や希望等を考慮して、配属先を決定します。



組織図



寮・宿舎



代々木上原寮

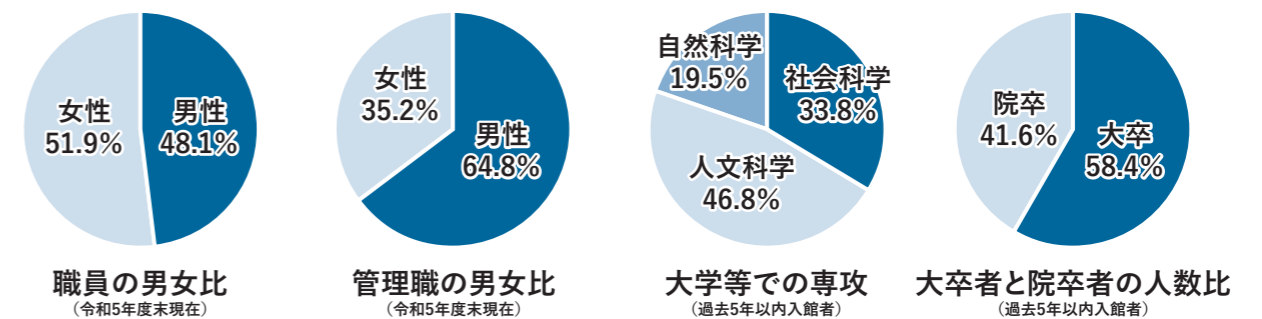


京都宿舎

東京都渋谷区に代々木上原寮（独身者用）が、京都府相楽郡精華町に京都宿舎があります。

- 代々木上原寮
東京メトロ千代田線代々木公園駅から徒歩5分
- 京都宿舎
関西館から徒歩5分

職員統計



国立国会図書館ホームページの「次世代育成支援及び女性活躍推進」に育児休業取得率、女性の活躍状況等に関する統計情報の詳細等を掲載しています。<<https://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/policy/jisedai.html>>

調査及び立法考査局

国会の立法活動を補佐するため、国会議員やその他の国会関係者に対して、法案等の分析・評価、国政審議に係る調査及び情報提供を行います。

また、国会情報・立法情報への国民のアクセスを容易にし、国会と国民とをつなぐ役割も果たします。これら広範な業務を行うため、法律、政治、経済、社会、科学技術等、多様な分野の人材が専門知識をいかして活躍しています。

依頼調査



国会議員等から調査の依頼を受けて、所蔵資料やデータベースを使って調査を行う。



調査について打合せ。報告書にまとめることや、国会議員に直接説明することもある。

国政課題に関する調査研究

国会で論点になりそうな国政課題に関する調査研究を行い、その結果をレポートに取りまとめ、刊行物として国会議員等に提供する。それぞれの問題について、法制度・政策の変遷、諸外国の法制度との比較、政府の見解、有識者による賛否の意見を分かりやすくまとめる。国会審議に資するよう、著者自身の説を提示するのではなく、出典を示しながら多様な見解を客観的に紹介する。



国会関連情報の提供



「国会会議録検索システム」では、第1回国会（昭和22（1947）年）から現在までの国会会議録を画像及びテキストデータで提供し、発言者名による検索や発言の全文検索が可能。また「日本法令索引」では、公正式施行（明治19（1886）年）以降の法令の改廃経過や法案の審議経過の情報を提供し、他サイトへのリンクにより法令・法案の本文も参照が可能。これらのデータベースを作成、維持管理し、国会と国民とをつなぐ。

「立法府のブレイン」を目指して

大湖 彬史 憲法課副主査



言論の府とも呼ばれる国会では、様々な議案・政策について国会議員による議論が数多く行われています。調査及び立法考査局は、文献等の資料やそれらに基づく客観的な調査・分析の提供など、高度な専門性に基づいた付加価値の高いサービスを的確に遂行することにより、「立法府のブレイン」として国会の活動を情報面から補佐する役割を担っています。

情報通信技術が発達した現在、社会には情報があふれ、かえって正確な情報を得ることが難しくなっているといわれています。調査及び立法考査局は「立法府のブレイン」であろうとする以上、調査回答やレポート（左ページ「依頼調査」及び「国政課題に関する調査研究」参照）には、正確かつ客観的な事実と、そこから論理的に導かれる調査・分析が記載されていなければなりません。

そのためには、各調査員が担当するテーマ（私であれば憲法、国民投票、皇室制度等）について日頃の情報収集・勉強を欠かさないとともに、

「提供資料に過不足はないか」「調査・分析に事実誤認はないか」などと、一つ一つの作業について上司と相談しつつ丁寧に取り組む姿勢が必要です。

例えば、ある国で行われた憲法改正に関するレポートを作成する場合には、法令用語をどのように訳すか、その国における憲法とは何を意味するのか（我が国のように単一の憲法典にまとまっているとは限りません。）、議会、政府等の解説資料から引用すべきものはないかといった点を確認しなければなりません。

もちろん、私自身「まだまだだなあ……」と思うことばかりです。しかし、逆にいえば常に成長を感じることができる職場ですし、当館の豊富な資料や専門的知識を持った職員が日頃の業務を支えてくれます。皆さんと共に働ける日を楽しみにしています。



調査に必要な文献の見つけ

学生時代の専攻

法学

Career

H28.4 調査及び立法考査局国会レファレンス課

H29.4 調査及び立法考査局行政法務課

R2.4 出向（衆議院法制局）

R4.7 調査及び立法考査局憲法課（副主査）

収集書誌部

納本制度に基づく国内出版物の網羅的な収集、購入や国際交換による外国出版物等の収集から、書誌データや典拠データの作成・提供といった資料整理、そして資料を恒久的に後世に伝えるための資料保存までを担います。

収集



国内で刊行された全ての出版物は、納本制度に基づき、国立国会図書館に納入することが義務づけられている。図書・雑誌・新聞のほか、CD・DVD等の電子出版物、地図や楽譜も収集対象である。納本制度に加えて、購入・寄贈等の手段も活用し、広く収集している。

外国の出版物は、購入・国際交換等により、国会活動の補佐や学術的な調査・研究に役立つ資料、日本関係資料等を選択して収集している。

書誌作成及び提供



収集した資料のタイトルや著者名、主題を表すキーワード等、資料を探す手がかりとなる情報を記録した書誌データを作成する。日本国内で刊行された出版物の標準的な書誌データを作成・提供する役割を担っている。作成したデータは、所蔵資料の検索に使われるほか、国内外の図書館等でも活用される。

保存

収集した資料を永く保存し、国民共有の文化的資産として後世に伝えるために、破損資料の修復や保存環境の整備を行う。また、予防的保存の観点から、全館的な連携・協力の下、資料防災や虫菌害対策にも取り組む。さらに、国内外の図書館等における資料保存を促進するため、情報発信や研修等を行う。



世界に通じる 標準的な書誌データの作成

高橋 良平 収集・書誌調整課主査



国立国会図書館は、納本制度に基づいて収集された膨大な資料の中から、利用者が目的の資料を探し出せるよう、タイトルや著者名などの情報を記録した書誌データを作成しています。私は収集・書誌調整課で、書誌データの作成に関するルールの維持管理を担当しています。

インターネットの普及により大量の書誌データがウェブ上で流通するようになって、目録の世界では、共通ルールで書誌データを作成しようという取組が進められています。日本図書館協会と国立国会図書館が連携して策定した『日本目録規則 2018年版』(NCR2018)もその一つです。NCR2018は国際的に普及している目録規則である Resource Description and Access (RDA) との互換性を意識して、約30年ぶりに抜本改訂されました。

NCR2018の特徴の一つが、資料を探す手がかりとなる言葉や名称を整理してまとめた「典拠データ」機能の重視です。典拠データを使えば、同姓同名の著者を識別し、複数の翻訳タイトルをもつ作品の書誌データをまとめるなど、よりの確な検索が可能になります。さらに、典拠デー

タに張られた関連データへのリンクから、新たな情報探索を深めることもできるのです。国立国会図書館では令和3(2021)年のNCR2018適用開始に合わせて、同じ作品をグルーピングする「著作典拠」の提供を開始しました。私たちは、NCR2018の詳細な運用方針や著作典拠の作成ルール等を策定して書誌データ作成の標準化に努めるとともに、他の図書館でもNCR2018を適用する際の参考にしていただけるよう、これらのルールを公開しています。

国立国会図書館で作成された書誌データと典拠データは、蔵書検索のためだけでなく、国内外の図書館やデータベースに提供され、世界中で利用されています。ルールの維持管理は神経を使う作業ですが、世界に通じる標準的な書誌データを提供できるよう、やりがいを持って取り組んでいます。

学生時代の専攻

史学

Career

- H17.4 資料提供部図書課
- H20.10 収集書誌部国内資料課
(H24.7 副主査、H25.10 整理第二係長)
- H28.4 総務部企画課
(副主査、H29.4 評価係長、H30.7 主査)
- H31.4 電子情報部電子情報企画課 (主査)
- R4.4 収集書誌部収集・書誌調整課 (主査)



書誌データについて意見交換

利用者サービス部

国立国会図書館が所蔵する様々な資料やデータベース、電子ジャーナル等の電子情報を用いて、国内外の利用者に図書館サービスを提供します。東京本館における資料の閲覧、複写、レファレンスといった来館サービスの提供と、遠隔複写やデジタル化資料の送信といった来館せずに利用できる遠隔サービスの提供を担います。

また、専門知識をいかして膨大な資料・情報を整理し、効果的な調べ方のガイドの作成や、特色ある資料を紹介する展示会の開催等を行っています。

資料・情報の提供



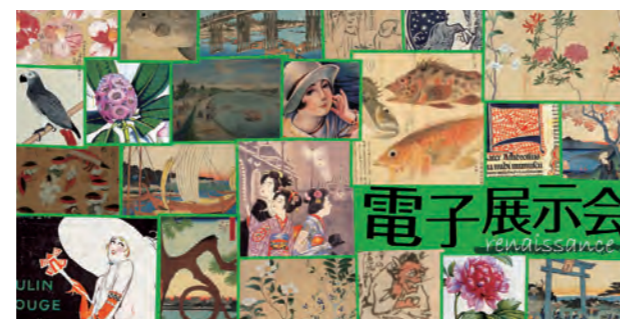
図書、雑誌、新聞、古典籍、地図、録音映像資料、憲政資料等の様々な所蔵資料やデータベース、電子ジャーナル等の電子情報について、閲覧等の館内利用サービスとともに、国内外の図書館への貸出しやインターネット経由で申し込まれた複写物の郵送等の遠隔サービスを提供する。また、所蔵資料の利用と保存を両立するための資料のデジタル化を実施しており、絶版等により入手困難なデジタル化資料を送信するサービスも行っている。

レファレンス

豊富な所蔵資料と職員の専門知識をいかして様々な情報資源を選定・整備し、国内外の利用者や図書館からの問合せに回答している(一部の事例は「レファレンス協同データベース」に登録されている)。同時に、調査のポイントや参考になる資料、有益なデータベースやウェブサイト等、調べものに役立つ情報をまとめ、「リサーチ・ナビ」を通じてインターネット上で発信している。



展示



国立国会図書館の所蔵する特色ある資料の魅力を伝え、活用してもらうために、展示会を開催する。館内で「あの人の直筆」、「挿絵の世界」等のテーマに沿った企画展示を定期的で開催するほか、常設のギャラリー展示も運営する。また、ホームページ上では、電子展示会(「近代日本人の肖像」、「NDLイメージバンク」)、ミニ電子展示「本の万華鏡」等を公開する。

利用者が求めるものへ橋渡しができるよう

清水 茉有子 サービス企画課主査



国立国会図書館のサービスを利用した経験のある方は、公共図書館等との違いに驚かれたことがあるのではないのでしょうか。国立国会図書館は、資料・情報の検索や利用のための申込方法等、サービスの仕組みに複雑な点が多くあります。私は現在、利用者向けの情報システムを国立国会図書館特有のサービスに適した形に改善するとともに、より使いやすくするための仕事をしています。

今では図書館を訪問せずに利用できるサービスも増加し、情報システムを通じたサービス提供は、場所や昼夜を問わず行われています。私自身は利用者と直接やりとりする機会は限られていますが、利用案内を担当する職員からシステム関係の問合せや要望等が寄せられれば現行の機能や設計内容等について確認し、システムに障害が起きれば、可能な限りサービスを継続して利用者に不便をかけないように、その対処のために奔走します。このように、サービス部門やシステム部門と連携して日々のサービス提供に当たりながら、アンケート

や利用動向の分析結果等からもサービス上の課題やシステムの機能改善のためのヒントを集め、時にはサービスの在り方そのものについても長期的な計画の下で議論します。

国立国会図書館の所蔵する多種多様な資料、デジタル化資料、電子ジャーナル、調べものに役立つ情報等、利用者がそれぞれの目的に沿って探し求めているものを効率的に入手できることは利用者サービスの根幹です。予算やスケジュール等の条件を踏まえつつ、思い描くサービスを実現するため、どのように情報システムを良くしていくかに考えを巡らせる毎日は、私に大きなやりがいを与えてくれます。

学生時代の専攻

社会学

Career

- H22.4 主題情報部新聞課
(H23.10 利用者サービス部
図書館資料整備課に組織再編)
- H24.4 電子情報部電子情報サービス課
- H27.4 国際子ども図書館企画協力課
- H29.4 同資料情報課
(H29.7 副主査、H30.4 展示係長)
- R3.4 利用者サービス部サービス企画課
(情報サービス企画係長、R5.7 主査)



日々のサービス改善について相談

電子情報部

情報技術を用いた国会議員への調査サービス・情報提供サービスの充実のほか、インターネットを通じて個人の端末や身近な図書館で閲覧できるデジタル資料の拡充を図るとともに、国内外の誰もが活用可能な知識基盤の構築を目指します。

また、業務の基盤となるネットワークやシステムの管理を担います。

電子情報事業に係る企画・研究



デジタルで全ての国内出版物が読める未来を目指し、所蔵資料のデジタル化を推進するとともに、デジタル情報の長期保存等、国立国会図書館の電子情報事業に係る計画の立案や関係団体との調整を実施する。外部機関との連携協力を推進し、国の事業である多様なデジタルアーカイブの検索・閲覧・活用プラットフォーム「ジャパンサーチ」の開発・運用も担当する。「NDLラボ」では次世代の図書館システムを開発するための調査研究や実験も行う。

情報資源へのアクセス提供



国立国会図書館の所蔵資料やデジタルコンテンツの検索・申込に加え、全国の公共図書館・学術機関のデータベースの横断検索ができる「国立国会図書館サーチ」、震災記録のポータルサイト「国立国会図書館東日本大震災アーカイブ（ひなぎく）」等を開発・運用し、様々な情報資源へのアクセス手段を提供する。

情報システムの開発・運用

「国会会議録検索システム」や「日本法令索引」等の立法活動に関する情報を管理・提供するデータベース、公式ホームページ、資料の収集・整理等の業務のための情報システムを開発・運用する。国会向け・一般利用者向けの各種サービスの提供と業務の遂行を、システムインフラの構築と運用により支える。



情報資源を利活用できる“場”を提供するために

島崎 憲明 電子情報サービス課
電子情報サービス調整係長（執筆時）

国立国会図書館が収集する様々な情報資源は、利活用されて、その真価を発揮できると言えます。国立国会図書館は、来館せずに情報資源を利活用できる“場”として、インターネットを通して「国立国会図書館サーチ」〈<https://ndlsearch.ndl.go.jp/>〉等の情報システムを提供しており、電子情報サービス課では、その開発や運用等を行っています。私は電子情報サービス調整係長として課内の一般事務全般を担当するとともに、立法・主題情報提供系の業務も行っています。後者について、2点ご紹介します。

まず、様々なテーマに関する調査のポイントや参考資料等の調べものに役立つ情報を提供するウェブサイト「リサーチ・ナビ」〈<https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi>〉の運用保守です。いつでもコンテンツを使えるよう、システムの安定稼働のため、例えば障害の予兆の有無等を確認します。「いつでも使える」、そんな当たり前のことを当たり前にする、地道ですが意義のある業務だと感じています。

次に、国内の図書館等と連携し、各館の利用者からの調査依頼への回答等を記録・蓄積して



担当するシステムについて不具合がないか確認



いる「レファレンス協同データベース」〈<https://crd.ndl.go.jp/>〉のリニューアル（令和6（2024）年2月に完了）です。館内外からの要望を踏まえ、デザイン刷新や機能追加等による利便性の向上を図りました。開発が進む中で各種要望が具現化される過程を経験したほか、リニューアル後、連携先の図書館等から好意的な評価をいただけたことに大きなやりがいを覚えました。

なお、これらの業務では、システムを使ってサービスを提供する部門との連携が必要不可欠です。実現したいサービスに対し、システムが対応できることには限りがあり、調整に悩むこともあります。「よりよいサービスを提供したい」との思いはみな同じですので、協力して取り組んでいます。

情報資源を利活用できる“場”への期待や需要は、今後ますます高まることでしょう。そんな“場”を提供する業務に興味をお持ちの方と、一緒に働けることを楽しみにしています。

学生時代の専攻

工学（情報理論）

Career

- H27.4 利用者サービス部科学技術・経済課
- H30.4 電子情報部電子情報サービス課
(R4.7 副主査、R5.4 電子情報サービス調整係長)
- R6.4 総務部会計課（副主査）

関西館

京都、大阪、奈良の3府県にまたがる「けいはんな学研都市」に位置し、アジア関係資料や博士論文等特色ある資料の収集・整理・保存・提供を行います。

また、図書館員を対象とした研修等の図書館協力事業やデジタル化資料の提供等の電子図書館事業、来館せずに所蔵資料を利用できる遠隔利用サービスの拠点を担います。

図書館協力事業



国内の図書館と連携した「レファレンス協同データベース」や「国立国会図書館総合目録ネットワーク」の運営、ウェブ会議システムやYouTubeも活用した図書館員向けの研修、国内外の図書館や図書館情報学の動向に関する調査及び情報提供、障害者サービスを実施する図書館への支援、視覚障害者等用データ(DAISYや点字データ等)の収集・送信サービス及び国際交換サービス等を実施している。

資料・情報提供、レファレンス



東アジアから中東・北アフリカまでの幅広い地域のアジア言語資料、博士論文、科研費報告書等、特色ある資料のほか、各分野の概説書や参考図書など調査に役立つ資料を所蔵し、来館利用者に閲覧・複写・レファレンス等のサービスを提供している。また、遠隔複写・図書館間貸出し・デジタル化資料送信サービス等、個人向け・図書館向けの遠隔利用サービスの窓口としての役割も担っている。

電子図書館事業

関西館所蔵資料のデジタル化を行うとともに、国立国会図書館及び他機関がデジタル化した資料を提供している。著作権処理によるインターネット公開のほか、絶版等で入手困難な資料の図書館や個人に対する送信も実施。公的機関のウェブサイトを網羅的に、民間のウェブサイトを選択的に収集して提供し、オンライン資料(電子書籍・電子雑誌)の収集・提供も行っている。また、電子情報の保存に関する調査研究等にも取り組んでいる。



未来の図書館を作る仕事

原 聡子 電子図書館課課長補佐

インターネット上で提供される情報資源の増加に伴い、国立国会図書館では、ウェブサイトや電子書籍・電子雑誌の収集・保存に取り組んでいます。私は関西館の電子図書館課で、民間の電子書籍・電子雑誌を収集・保存し、「国立国会図書館デジタルコレクション」(https://dl.ndl.go.jp/)を介して提供する業務を担当しています。

電子書籍・電子雑誌の収集は、国立国会図書館法で電子書籍・電子雑誌の納入が出版者に対して義務付けられたことを受け、平成25(2013)年から始まりました。当初は無料で公開されている資料のみを対象としていましたが、関連法規の改正により、令和5(2023)年1月からは有料の資料の収集も開始しました。

主な業務は、出版者との収集方法の調整やメタデータの作成です。収集対象の拡大に当たっては、他の部署と協力して収集制度の見直しにも携わり、具体的な運用方法を策定しました。

収集は法律に基づいて実施しますが、紙の書籍と異なり1冊の範囲が明確でない場合があるなど電子書籍・電子雑誌の形態は様々で、収集方法や収集範囲の判断に迷うことが多くあります。そのようなときは担当者間で議論を重ね、インターネッ



納入された電子書籍を確認



ト上の情報資源を後世に残し、情報へのアクセスを保障していくために、最適な収集・保存の在り方を日々模索しています。これまでになかった資料群を相手にする仕事は困難も多いですが、地道な作業や調整、試行錯誤の積み重ねがこれからの図書館を形作っている、という手応えと責任を感じながら働いています。

今後ますますインターネット上の情報資源は増加・多様化していくでしょう。目の前の課題に向き合いながらも、目指すべき「未来の図書館」の姿を思い描き、自分なりの信念をもって仕事をするべきだと考えています。国立国会図書館はそれができる職場です。未来への熱意を持つ皆様と働ける日を楽しみにしています。

学生時代の専攻

家族社会学

Career

- H18.7 関西館事業部図書館協力課 (H19.4 関西館図書館協力課に組織再編)
- H21.4 総務部情報システム課 (H23.10 電子情報部電子情報サービス課に組織再編)
- H24.4 電子情報部システム基盤課
- H25.4 利用者サービス部サービス企画課 (H25.7 副主査)
- H30.4 総務部会計課 (副主査、R1.7 主査)
- R4.4 関西館電子図書館課 (主査、R6.4 課長補佐)

国際子ども図書館

上野公園に位置し、「子どもの本は世界をつなぎ、未来を拓く!」の理念のもと、児童書専門図書館、子どもと本のふれあいの場、子どもの本のミュージアムの3つの役割を担っています。デジタル化が進展する社会における子どもや図書館を取り巻く環境の変化にも対応しつつ、子どもの読書活動支援サービスを提供しています。

児童書専門図書館



令和5(2023)年度制作のトークイベント動画より

国立の児童書専門図書館として、国内外の児童書及びその関連資料を収集・保存・提供するとともに、児童書に関する専門的な情報を広く発信し、児童書や子どもの読書に関わる多様な活動を国際的な連携の下で支援する。

図書館員等児童サービス関係者を対象とした研修や交流会、国内外の有識者や著名な作家、画家を招いての講演会や動画配信等を通じて、児童サービスの専門性の向上に資する情報を提供する。



子どもと本のふれあいの場



国内外の児童書の提供、各種催物、見学・体験等を行うほか、インターネットや身近な図書館を通して、全ての子どもが本とふれあい、図書館や読書に親しむきっかけを提供する。

子どもの本のミュージアム

児童書に関する展示会やそれに関連した講演会、各種イベント、電子展示会等を通して、児童書の持つ魅力を広く一般に紹介するとともに、上野公園という立地や、明治期に建設された歴史的建造物であるレンガ棟をいかし、総合的に文化に親しむ場としての図書館を目指す。



子どもたちと一緒に、本の世界を広げる

原 智美 児童サービス課

国際子ども図書館は、国立国会図書館の部局で唯一、毎日子どもたちの声が聞こえてくる職場です。その中でも、私の所属する児童サービス課は子どもたちへの直接サービスを担当しており、赤ちゃんから小学生向けの「子どものへや」「世界を知るへや」と中高生向けの「調べものの部屋」を運営しています。「本って楽しい」「調べるって面白い」と感じてもらえるよう、「おはなし会」や「調べもの体験プログラム」を実施しています。

来館する子どもたちは年齢も興味も様々です。おはなし会で歌うわらべうたを元気よく一緒に歌ってくれる小さい子から、体験プログラムでクイズに見事正解し、友達と盛り上がって喜ぶ高校生まで、心から楽しんでいる瞬間に日々立ち会えるのはとても幸せなことで、大きなやりがいを感じています。

来館サービスと並行して、全国の学校図書館へ資料を貸し出す「学校図書館セット貸出し」も行っています。また近年は、子どもたちの学習環境の情報化が進んでいることを踏まえ、読書や学習に役立つオンラインコンテンツ(小学生向け



の「しらべる・まなぶ・よむ」〈<https://www.kodomo.go.jp/guide/kids/>〉及び中高生向けの「調べる・学ぶ・読む」〈<https://www.kodomo.go.jp/guide/ya/>〉の提供を始めました。

こうした私たちの実践から得た知見を広く共有するために、図書館や学校で働く大人向けにも「調べもの体験プログラム体験会」を実施したり、本に親しむイベントを外国の大使館と共催したりするなど、交流の場づくりや情報発信にも力を入れています。

児童サービスの世界は非常に奥が深く、児童図書館員として学ぶべきことはまだまだありますが、自分が子どもの頃に図書館で素敵な本と出会ってわくわくした気持ちを思い出しながら、責任をもって業務にあたっています。これからも子どもたちと一緒に、本を楽しみ、成長していきたいです。

学生時代の専攻

法学、公共政策学

Career

- H30.4 利用者サービス部科学技術・経済課
- R2.7 総務部人事課
- R3.10 総務部総務課
- R5.4 国際子ども図書館児童サービス課



「調べものの部屋」の展示替え

総務部

組織を円滑に運営するため、文書や法規の管理、広報、国会との調整、国立国会図書館の方針の企画立案、予算と執行の管理、庁舎や設備の管理、人事厚生の手続、行政・司法各部門の支部図書館との連絡調整、国際機関との協力等、幅広い業務を担います。

Do から Act への橋渡し

青山 寿敏 企画課主査

私が所属する企画課評価係は、国立国会図書館の活動（サービス・業務）を自己評価する「活動実績評価」の作成を担当しています。活動実績評価は、いわゆるPDCAサイクルのCに当たるものです。計画（Plan）の下で国立国会図書館が行った様々な活動（Do）について年度ごとに評価（Check）し、その結果を次の企画立案や活動の実施に役立てる（Act）ことを目的としています。自分が作成した文書によって国立国会図書館が1年間取り組んだことの評価が決まってしまうことには大きな責任を感じる一方で、やりがいも十分です。

そのような評価を客観的に行うためには、統計データの収集・管理も欠かせません。評価係では、国立国会図書館の各種サービスがどの程度利用されているかを原則として月単位で集計し、状況の把握に努めています。また、統計データでは測れない利用者の声を受け止めるために、利用者アンケートも毎年度実施しています。

以上の業務を行うに当たっては、統計分析についての理解も必要です。この点は、過去に国内留学（派遣研修）制度を利用して外部機関で経済分析の手法を学んだ経験が大いに役立っています。



学生時代の専攻

分子生物学

Career

- H23.4 主題情報部科学技術・経済課 (H23.10 利用者サービス部科学技術・経済課に組織再編)
- H23.12 東京電力福島原子力発電所事故調査委員会事務局職員を兼任
- H26.4 調査及び立法考査局経済産業課 (H30.7 副主査)
- H30.4 日本経済研究センターへ派遣研修
- H31.4 調査及び立法考査局経済産業課 (副主査)
- R3.4 総務部企画課 (副主査、R4.10 評価係長、R6.7 主査)

出向・人事交流

外部機関での経験により視野を広げ、国立国会図書館での業務に役立てることを目的として、国や地方公共団体等の諸機関と出向・人事交流を行っています。また、実務研修として、公共図書館との研修交流も行っています。

〈主な出向先・実務研修員派遣先〉

衆議院事務局 衆議院法制局 参議院法制局 会計検査院 文化庁
東京都立図書館 京都府立図書館 大阪府立図書館

海外留学

国立国会図書館では、調査部門・図書館部門から若干名の職員を海外の大学院に派遣しています。最近の留学先としては、ロイヤル・カレッジ・オブ・アート、シカゴ大学、ルクセンブルク大学、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン、キングス・カレッジ・ロンドン、ニューヨーク大学等があります。



松永 しのぶ (電子図書館課主査) 写真右

令和4(2022)年9月からの約1年間、英国ウェールズのアベリストウィス大学院の電子情報及びメディアマネジメントコースで長期在外研究をしました。留学前は関西館電子図書館課で、デジタル化した資料のデータや旧式メディアに格納されたデータなどをいかに長期的に保存し、利用を保証していくかという調査研究を担当していました。業務を通じて、世界的にも課題となっている電子情報の保存や長期的な利用について、体系的に学びたいと思ったことが留学の動機でした。

留学を通じて、国際的な専門家団体が推奨して

いるコースで国際標準や規格、諸外国での事例を学ぶことができました。また、実習を通じて実際にデジタルデータの長期保存に使われているシステムやソフトウェアを使うこともできました。修士論文は図書館、ミュージアム、大学等でデジタル資料をどのように保存しているのかを、方針、方法、利用手段等を比較する形で執筆しました。修士論文の執筆を通じて、人的な繋がりも得ることができました。

久しぶりの学生生活は、授業準備やレポート、実習で忙しい日々でしたが、ウェールズ国立図書館でのボランティア活動や、英国の納本図書館5館を訪問したことで、同じ国立図書館や納本図書館でも英国内で立ち位置やサービスが異なることを理解することもできました。

国立国会図書館には、長期留学以外にも短期在外研究、国内留学、語学研修といった人材育成のプログラムもあります。こういった機会を通じて成長できることが、国立国会図書館の魅力の一つだと思います。

図書館及び関係機関との連携

国立国会図書館は、国際図書館連盟(IFLA)等の国際的な活動への参加を通じて、海外の国立図書館や関係機関との交流や協力活動を行っています。

業務交流の場での通訳や国際会議でのプレゼン等、語学の堪能な職員が活躍する機会があります。





田中 智子
総務部副部長・会計課長事務取扱

主な経歴	
H4.4	入館
H17.7	主題情報部科学技術・経済課（主査）
H18.4	主題情報部科学技術・経済課（課長補佐）
H20.7	収集書誌部国内資料課（課長補佐）
H23.4	収集書誌部収集・書誌調整課（課長補佐）
H25.4	総務部総務課（課長補佐）
H27.4	総務部主任参事
H30.4	収集書誌部外国資料課長
R2.4	収集書誌部国内資料課長
R5.4	総務部副部長・会計課長事務取扱

これまでの経験を振り返って

複数の部署を経験し、多様な業務経験を積んできましたが、特に新規事業の立ち上げや既存業務の見直しに参画することで、多面的なものの見方や柔軟な対応力が身についたと感じています。特に印象に残っているのは、納本制度による収集実務を担当した際、民間出版物の納本手順等の大規模な改定に関わったことです。変更にあたっては、関係する民間団体との調整や館内の手続の見直しなどに中心的に取り組みましたが、法規上の原則を逸脱せず、関係者間で利害の調整を図っていくには、制度や相手側の立場に対する理解とこれまでの枠組みにとらわれない検討や発想が大切だと痛感しました。管理職になってからも、課員がリスクを過度に恐れず、自発的に課題対応ができるような雰囲気醸成と問題意識・方向性の共有は特に意識しています。

現在は、総務部会計課長として、国立国会図書館の予算要求や執行管理の全体調整を担当しています。国の財政状況が厳しい中、館の事業に予算を確保し、法令にのっとり適切な会計事務の執行を継続するためには課題も多く、内外との調整には困難もありますが、同時にやりがいも感じています。国立国会図書館の多種多様な事業に「資源配分」という観点から直接関与できる部署であり、対外的な調整が不可欠であることを含め、総合的な視点を身につけることができると考えています。

国立国会図書館を志望する方へ

国立国会図書館には多様な業務がありますが、それぞれ「文化の蓄積」「サービスの提供」などを通じ、理念的にはつながっており、全体の政策的な方向性を理解した上で個別課題に対応することが成果につながっていきます。多様な経験と柔軟な吸収力から幅広い知見を持つことが特に大切です。新しいことにチャレンジする積極性と周囲から広く学ぶ気持ちを持った皆様と一緒に働けることを楽しみにしています。



予算について部下と相談



河辺 照彰
調査及び立法審査局行政法務課長

主な経歴	
H10.4	入館
H21.7	関西館文献提供課（主査）
H22.4	関西館総務課（課長補佐）
H25.4	関西館文献提供課（課長補佐）
H26.4	総務部企画課（課長補佐）
H28.4	総務部総務課（課長補佐）
R2.4	総務部主任参事
R4.6	調査及び立法審査局行政法務課長

国立国会図書館の業務の魅力

現在、行政、地方自治、民事・刑事、人権等の分野の立法調査業務の担当課長として、膨大な所蔵資料と契約データベース等を情報源に、国内外の情報を適時に国会議員等に提供する業務に従事しています。我々が行った回答が国会審議に活用されることも多く、やりがいを感じるとともに、我々の活動が国政に直結することの責任感を意識しながら、正確な調査・分析を心掛けています。また多様な国政課題について調査研究を行い、その成果を刊行物、セミナー等で発表しています。

私は、入館以来、様々な業務に従事してきました。国立国会図書館の魅力は、一つの職場でありながら多岐にわたる業務を経験できる点にあります。一見無関係な業務に見えても実は関連があり、後に役立つことがありますし、幅広い視点を持つことも可能となります。私の場合、例えばシステム部門でのネットワーク構築の経験を閲覧部門での公衆無線 LAN 導入に、閲覧部門での実務経験を総務部門での法規整備に、いかすことができました。それと同時に、国立国会図書館は採用前のバックグラウンドの多様性に加えて、採用後も各部署でたゆまぬ努力を続け、高度な専門知識を習得した職員が多数存在します。広い視野を持ちつつも、核となる高い専門性を有する職員が多い点は、まさに多様な情報を収集・整理し、高度な情報ニーズにも応える国立国会図書館ならではの魅力と感じています。

国立国会図書館を志望する方へ

国立国会図書館のサービスは、様々な方々（国会関係者、来館・遠隔利用者、出版者・書店等）に支えられています。今後、電子化が進進しても人とのコミュニケーションの重要性は変わらないでしょう。立法調査業務では依頼の趣旨を正確に把握することが大切ですが、これは他の業務にも求められる能力です。私が新たな課題に直面したときは、館内外の方々に率直に相談することで、貴重な助言・支援を得ることができました。チームで取り組むと、より良いアイデアが生まれ、達成感も一層大きなものとなります。

デジタル社会の到来に伴い変革期にある国立国会図書館の将来像を、共に考えてくださる意欲的な皆様との出会いを楽しみにしています。



海外の法令について情報を収集

入館後3年以内の職員に聞きました。このほかにも、国立国会図書館ホームページ「採用情報」では、採用試験合格者（採用予定者）の合格体験記・アンケート結果も公開しています。ぜひご覧ください。

志望動機／国立国会図書館に決めた理由

納本制度によって収集した資料を基に、国会・国民へのサービスを提供するという唯一無二な仕事に憧れました。

「情報を活用して幅広い人の役に立てる」という観点で就職活動をする中で、調査業務や利用者サービスなど多様な業務がある点に惹かれました。

調査及び立法考査局のことを知り、「好きな調べものを仕事にできたら最高だなあ」と思ったため。

本に携わる仕事かつ、学術性の高い仕事が好きで志望しました。経済的な利益ではなく、社会全体の利益に資することも魅力的でした。

どんなに時代が変化しても、その時々記録を残すことの重要性は普遍だと思ったから。また、数十年、数百年先の将来のために仕事ができると感じたから。

学生時代に培った調査研究能力や語学力、計算機に関する知見を総合的に活かせるのではないかと考えたこと、書籍も含めた情報流通に関わりたかったことがきっかけです。

入館して驚いたこと

業務の幅が広いこと。自分の業務とは直接関わりのない業務も多く、先輩から他部署の経験談を聞くのが面白いです。

本に限らず様々な媒体の資料があり、今まで触れることのなかった種類の資料を扱うことができること。

図書館ということで黙々と仕事をイメージでしたが、上司や周りの人と一緒に業務を進めていくことが多く、相談しやすい環境です。

研修が盛んに行われており、多くの学びを得られます。新しい知識を得ることが好きな人が周囲に多いこと。

やりがいを感じた時

館内の見学案内をして、見学者に興味深く聞いていただき、参加してよかったと言ってくれたとき。

調査結果を国会議員に直接説明するとき。念入りな準備を行うため自分にとっても勉強になりますし、満足していただけると励みになります。

依頼者から、作成した調査報告について「わかりやすかった」「役に立った」と反応をいただいたとき。

自分が受入をした資料が、国民の文化的資産として永く保存されることを考えると、仕事の重大さとともにやりがいを感じます。

館内の展示コーナーを担当した際、利用者から好意的なコメントをもらったとき。利用者と資料を繋げることができたと感じました。

地道に検品していたデジタル化資料が、国立国会図書館デジタルコレクションで無事公開されたとき。

担当しているジャパンサーチが、調査・研究や学校の授業、創作活動などで活用されていると知ったとき。

国立国会図書館を志望する方へ

人の役に立っていることを実感しやすい業務が多い点が魅力だと思います。

今まで学んできたこと、経験してきたことが何らかの形で活かせる職場だと思います。また、新しい分野を学ぶ楽しさも実感できると思います。

国会サービスをはじめ、国立国会図書館ならではの業務がたくさんあり、様々な経験を積める職場です。

国立国会図書館は多くの重大な任務を持つ図書館です。知的好奇心を持ち、目の前の課題に真摯に取り組む皆様をお待ちしています。

国立国会図書館職員に求められる「専門性」

国立国会図書館ではあらゆる分野の資料・情報を扱っています。幅広い領域にわたる国政課題の分析には、科学技術や統計を含む様々な知識が必要とされます。また、社会科学、人文科学、自然科学の様々なテーマについてレファレンス回答や資料の紹介を行うためには、各分野の専門知識を持つことが求められます。近年は、電子情報サービスにも注力しているため、ITに関する知識をいかに増やしています。

そのため、国立国会図書館では、どのような分野であっても、大学等で培った専門性をいかに活かす機会を得られます。一方で、担当業務に合わせて新たな専門性を高める必要もあるので、研修に参加したり自主的な勉強会を開催したりするなど、知識の習得に積極的な職員も多くいます。

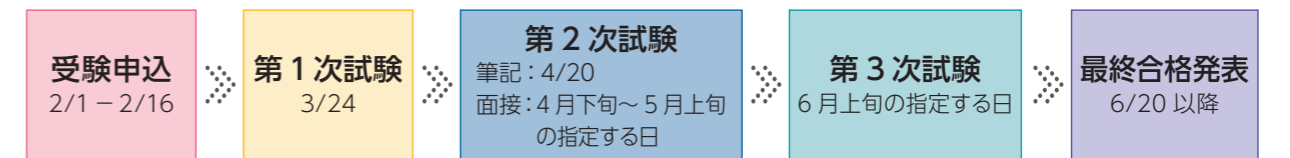
採用試験

最新の情報は、国立国会図書館ホームページの「採用情報」でご確認ください。<<https://www.ndl.go.jp/jp/employ/>>



国立国会図書館の職員は、独自の採用試験により採用しています。最終合格者は即採用予定者となり、官庁訪問に当たるものではありません。また、受験に当たって、司書資格は必要ありません。障害のある方に対しては、受験上の配慮を行います。総合職試験、一般職試験（大卒程度）に加えて専門職の試験を実施する年度もあります。総合職試験受験者については、総合職試験に不合格となった場合に、一般職試験（大卒程度）の受験者としての取扱いを受けることができる特例制度を利用することができます。

■ 試験日程（令和6年度実績）



■ 試験方法（令和6年度実績）

	総合職試験	一般職試験（大卒程度）
第1次試験	教養試験（多肢選択式・共通）	
第2次試験	英語試験（多肢選択式・共通）	
	専門試験（記述式・共通）	
	専門試験（記述式）	—
	小論文試験	—
第3次試験	人物試験（個別面接）	

※専門試験科目は、受験申込時に以下から1科目を選択。法学（憲法、民法、行政法、国際法から受験時に2分野選択）、政治学、経済学、社会学、文学、史学（日本史、世界史から受験時に1分野選択）、図書館情報学、物理学、化学、数学、工学・情報工学（工学全般、情報工学から受験時に1分野選択）、生物学。

■ 採用実績

	年度	R2	R3	R4	R5	R6
総合職試験	申込者数	458 (219)	363 (189)	384 (199)	428 (195)	406 (201)
	採用者数	3 (1)	3 (2)	3 (2)	3 (2)	3 (2)
一般職試験 （大卒程度）	申込者数	694 (414)	507 (322)	666 (418)	682 (434)	593 (349)
	採用者数	14 (8)	13 (7)	13 (7)	21 (13)	17 (10)

※一般職試験（大卒程度）の採用者には、総合職試験特例申込者を含む。
※（ ）内は女性の数。
※令和6年度の採用者数は令和6年10月時点の採用予定者数。